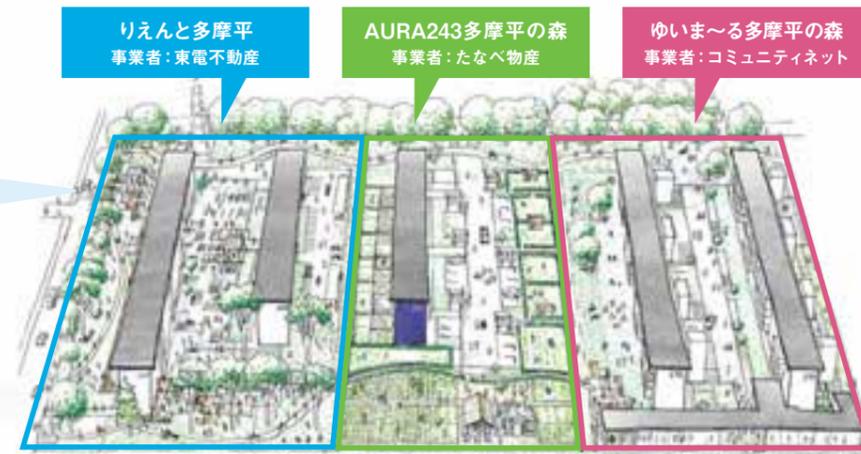


食のつながりが生み出す 新しい団地再生のかたち

東京都日野市で、古くなった団地を再生した賃貸住宅「たまむすびテラス」では、若者、家族、高齢者など様々な世代が暮らしている。ここでは食を通じたイベントなどによって世代間の交流も実現している。



※3



りえんと多摩平
事業者：東電不動産

AURA243多摩平の森
事業者：たなべ物産

ゆいま〜る多摩平の森
事業者：コミュニティネット

提供：(株)リビタ

りえんと多摩平 若者の活気にあふれた シェアハウス



※3

入居者が集まり、1階にある大型キッチンで料理をしてパーティーを開くなど、シェアハウスならではの交流がある

になっている。

高木計宏さん、知枝子さん夫妻は最近、住み慣れた日野市内の一軒家を買って「ゆいま〜る多摩平の森」に引っ越してきた。「基本的に自炊をしています。面倒なときや来客があったときは食堂を使っています。行けば必ず誰かいるから寂しくないし、自然とおしゃべりが始まって楽しいですね(高木計宏さん、知枝子さんご夫妻)。

食堂はクリスマスパーティーや

「イベントに集う多世代の笑顔」
「AURA243 多摩平の森」の1階住居には専有庭が設けられている。入居者以外も利用できる貸し庭「コロニーガーデン」や、貸

入居者のお茶会などにも利用されている。「食べたり飲んだりすると、自然と会話が弾みます。イベントをきっかけに入居者同士の交流がより深まります」(ゆいま〜る多摩平の森「ハウス長・榎引順子さん」)。

「また、屋外のイベントスペースにはBBQグリルや流し台が備え付けられており、新入居者のウェルカムパーティーや、収穫を祝うパーベキューパーティーなど、様々な催しに使われている。

一方、20代〜30代を中心に若者が多く入居する「りえんと多摩平」の1階には広い共同キッチンがあ

AURA243 多摩平の森 土と触れ合い 収穫を楽しむ生活



※2

収穫した野菜などを持ち寄り、AURAの入居者はもちろん他の棟の住民も参加してパーベキューなどを楽しむイベントを開催した

る。その横には大きなテーブルが並ぶ共用ラウンジがあり、外部には広いウッドデッキテラスが設けられている。入居者はこうした設備を使って一緒に料理をしたり屋外パーティーを開いたり、シェアハウスならではの生活を満喫している。

たまむすびテラスの入居者同士の交流も盛んだ。昨年暮れには、餅つき大会が開かれ会場は子どもから高齢者まで、多くの世代の笑顔であふれた。

「若い人たちに、私たちが餅のつき方や丸め方を、こつやるのよとやってみせると、見よう見まねで覚えてくれて。一緒に作ったお餅のおいしかったこと!」(ゆいま〜る多摩平の森に住む吉崎安喜子さんは笑顔でこう話す。

餅つき大会だけでなく、どんど焼き、桜まつり、お月見など、食を通じた様々なイベントが季節に合わせて常に開催される。こうした住民同士の世代を超えた交流が地域の絆を一層深めている。

ゆいま〜る多摩平の森 地元の高齢者も集う 安心の住まい



※1

建物に併設された「ゆいま〜る食堂」は住民の憩いの場。入居者のクリスマスパーティーやお茶会なども開催される



※3



※2

3つの住まいに共通しているのは、それぞれ食を通じたコミュニケーションが図られていること。

例えば「ゆいま〜る多摩平の森」は、「ゆいま〜る食堂」を1階に併設。入居者や近隣住民の憩いの場

UR多摩平団地(東京・日野市)の入居が始まったのは1958年。今から54年前のことだ。当時最先端だった施設も老朽化が進み、10年ほど前から相次いで建て替えられ、現在は「多摩平の森」として生まれ変わっている。

「たまむすびテラス」もその一つ。入居者のターゲットが異なる3つの賃貸住宅で構成する。民間企業がそれぞれ既存の住棟を借り受け、古い建物を生かして、新たな賃貸住宅に生まれ変わらせた。



※1



※3



※4